

ある夜のこと、主は幻の中でパウロにこう言われた。「恐れるな。語り続けよ。黙っているな。私はあなたと共にいる。だから、あなたを襲って危害を加える者はない。この町には、わたしの民が大勢いるからだ。」パウロは一年六か月の間ここにとどまって、人々に神の言葉を教えた。（使徒 18:9～11）

「この男は、律法に違反するようなしかたで神を崇めるようにと、人々を唆しております」と言った。パウロが話し始めようとしたとき、ガリオンはユダヤ人に向かって言った。「ユダヤ人諸君、これが不正な行為や悪質な犯罪であるなら、当然諸君の訴えを取り上げるが、問題が教えとか名称とか諸君の律法に関するものならば、自分たちで解決するがよい。私は、そのようなことの審判者になるつもりはない。」（使徒 18:13～15）

パウロはアテネを去ってコリントに行った。ここで、アキラというユダヤ人とその妻・プリスキラ（ローマ名）に出会った。夫婦はクラウディウス帝が、全ユダヤ人をローマから退去させるように命令したので、最近、コリントに来ていた。パウロは自分と同業のテント造りの二人を訪ね、住み込んで一緒に、卑しい職業とされたテント造りの仕事をした。そして、安息日ごとに会堂で論じ、ユダヤ人やギリシア人に福音を語り、説得に努めた。

待っていたシラスとテモテがようやくコリントに来たので、福音宣教に専念し、ユダヤ人に対し、メシアはイエスであると力強く証しした。しかし、彼らは反抗し、口汚く罵ったので、パウロは衣の塵を振り払って、「あなたがたの血は、あなたがたの頭に降りかけられ。私には責任がない」と反発した。そしてパウロは、会堂の隣にあった、神を崇める（ユダヤ教に改宗した）ティティオ・ユストという人の家に移った。しかし、福音を受け入れた人々もいた、会堂長のクリスポは、一家を挙げて主イエスを信じるようになった。また、多くのコリントの人も、パウロの言葉を聞いて信じ、洗礼を受けた。パウロの説教は分水嶺のように人を右と左に分けたのである。

ある夜、主は幻の中でパウロに、「恐れるな。語り続けよ。黙っているな。私はあなたと共にいる。だから、あなたを襲って危害を加える者はない。この町には、私の民が大勢いるからだ」と告げた。コリントはローマの植民都市で、総督府が置かれていた。東西に恵まれた港があり、交通の要所として、経済的に繁栄していた。しかし反面、道德生活は退廃し、「コリントする」は「不品行を行う」を意味するほど、人心は荒廃していた。神はパウロに乱れたコリントに留まり、福音を宣べ伝えるように、命じられたのではないか。これに応え、パウロは一年六か月もの間、コリントで、人々に神の言葉を伝えた。パウロの宣教によってコリント教会は誕生したが、町の荒廃がそのまま教会に持ち込まれ、悩ましい教会となり、その後、パウロは福音的に正そうと何度も手紙を書き送っている。

ガリオンがアカイヤ州の総督であった時、ユダヤ人たちが一団となって、パウロを襲い、法廷に引き立てて、律法に違反して、神を崇めるように人々を唆していると訴えた。パウロが弁明しようとした時、ガリオンはユダヤ人に向かって、不正な行為や悪質な犯罪であるなら、当然諸君の訴えを取り上げるが、諸君のユダヤ教に関するものならば、自分たちで解決するがよい、私はそのようなことの審判者になるつもりはないと言い、ユダヤ人らを法廷から追い出した。不満だったユダヤ人たちは会堂長のソステネを捕まえて、袋叩きにし、うっぷんを晴らしたが、ガリオンは全く、心を留めず、無視した。